

平成 29 年度日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞「功労賞」



中 村 重 信（なかむら しげのぶ）

1938 年 11 月 18 日生まれ

【授賞理由】

研究者のみならず臨床医・教育者の立場からわが国における老年医学の発展に中心的な役割を果たされました。とくに認知症の分野においては社会問題として顕在化する以前から診療はもとより福祉・医療の協働や家族支援の重要性を訴え続け現在の認知症施策の礎を築かれました。また、今なお臨床試験の最前線で活躍する姿は後に続く者の道に光をもたらす存在といえます。

【略歴】

1980 年 8 月～1990 年 4 月	京都大学医学部神経内科学講座・助教授
1990 年 5 月～2002 年 3 月	広島大学医学部内科学第三講座・教授
2001 年 10 月～2005 年 3 月	国際アルツハイマー病協会第 20 回会議組織副委員長
2002 年 4 月～	洛和会京都新薬開発支援センター・所長
2016 年 4 月～	国際アルツハイマー病協会第 32 回会議組織委員長

【褒賞】

第 2 回ベルツ医学賞（1965）

【業績等】

認知症の人の豊かな生活を保障するために、医療、介護の両面からアプローチすることに努めた。医療面では新しい治療薬を開発する基礎的研究を行い、臨床試験による実用化に努力した。それとともに、認知症急性期医療についても診療システム構築に努めた。介護面では認知症の人や家族の訴えを聞き、それらの問題への対応について話し合った。介護保険施行当初、その普及に努力し、グループホームでの介護の問題点を検討し、よりよい介護を目指した。また、国際会議を開催することにより、わが国の認知症医療・介護の実情を世界に発信するだけでなく、海外の状況を把握し、わが国及び他国の将来の認知症介護の発展に寄与する方法を模索した。また、認知症ケアのさらなる充実のために、築いてきた認知症医療と介護両面からの経験を若い世代の介護を志す人々に語り継ぐこと、認知症ケアが十分行き渡っていない国の人々に日本での経験を伝えていくことだけでなく、アルツハイマー病を根本的に治療させるための薬物開発に尽力している。